

消費税について

八雲町立八雲中学校 三年 原田 志音

みなさんが、日常的に関わっている税金のひとつとして、消費税があげられると思います。消費税とは、いったい何のためのものなのでしょうか。

私は、そもそも消費税とは何かということを理解していませんでした。買い物をするたびに、値札の下のほうに小さく書いてある値段はなんだろう、どうしてレジに持っていったときの値段と、値札に書いてある値段が違うんだろう、と書いていました。

そして、それを母に聞いてみると、母は税込・税抜きという言葉を教えてくださいました。ですが、私には、その場で聞いただけでは理解することができませんでした。そこで私は、ネットで調べてみることにしました。

消費税とは、商品の販売やサービスの提供に対してかかる税金のことです。そしてその消費税が、税込か税抜かで分かります。税込とは、有形無形問わず商品を購入した際に発生する代金にかかる税金が、代金に含まれている場合をいいます。税抜とは、税込の逆で、購入した際に発生する代金にかかる税金が、代金に含まれていない場合をいいます。二〇一九年十月一日から、消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられていますが、食料品と新聞だけは八パーセントのままの軽減税率となっています。しかし、食料品のなかでも、レストランなどでの飲食は十パーセントですが、持ち帰りは八パーセントなど、軽減税率の仕組みはとても複雑なものとなっています。そもそも、なぜ消費税率の引き上げが行われるのかというと、日本は、速いスピードで高齢化が進んでおり、高齢化に伴う社会保障の費用は増え続け、税金や借金に頼る分も増えています。現在の社会保障制度を次世代に引き継ぐためには安定的な財源の確保が必要です。そのため、消費税率の引き上げが行われているのです。そうして集めた消費税は、主に年金・医療・介護・子育てなどの社会保障・身近な地域のくらしのために活用されています。

私は今までこの消費税について、増税してなにになるんだ、と思っていたり、ネット上で消費税の引き上げに反対の意見を書いている人たちに対して共感してしまっているところがありました。しかし、これらの消費税は年金・医療・介護・社会保障・地域のくらしに使われていること、そして、消費税についてくわしく調べていくうちに、フィンランドなど消費税の高い国では、負担はもちろんあるものの、教育・福祉が充実しており、教育費はほとんどの大学が無料であることなども知りました。

つまり、消費税があることで、日本をもっとよりよい国にしていくことができるのではないかと思えます。これからは、私自身が税についてさらに積極的に活動していくとともに、日本中の人たちがもっと税についての知識を増やし、税への批判的な意見を少しずつ減らしていけたらなと思います。